

国際交流基金アジアセンター “日本語パートナーズ” 派遣事業について The Japan Foundation Asia Center “NIHONGO Partners” Program

濱田祐生 HAMADA, Yuki
国際交流基金 Japan Foundation

【キーワード】 アジアセンター、“日本語パートナーズ”、日本語学習支援、双方向的な交流

国際交流基金は、日本文化の海外への紹介、海外文化の日本への紹介等、諸外国との交流を通じて国際相互理解を深め、世界の文化の向上及び人類の福祉に貢献することを目的として 1972 年に設立されました。それ以来、上記目的を実現すべく、全世界約 130 カ国以上の国々との間で、学術・芸術・スポーツ等のさまざまな分野にわたり国際文化交流事業を展開しています。

2013 年 12 月、日本政府は新しいアジア文化交流政策「文化の WA (和・環・輪) プロジェクト～知り合うアジア～」の実施を表明しました。これは、日本とアジア諸国間の文化交流を一層促進するために、文化芸術やスポーツ等の分野での双方向交流と日本語教育支援を二本柱として、2020 年までの期間にさまざまな文化交流事業を国際交流基金が主体となって実施するものです。

このプロジェクトの根底にある考え方は、単に日本の文化を一方向的に発信するだけではなく、アジアの国々と対等の立場に立ち、相手国のアイデンティティを尊重しつつ、双方向的な交流を行っていかうというものです。そして、このプログラムを実施する主体として、2014 年 4 月、国際交流基金の中にアジアセンターが設置されました。そのアジアセンターが実施する日本語教育支援策のひとつが「“日本語パートナーズ”派遣事業」です。

近年アジアにおける日本語学習者の増加、中でも東南アジアの中等教育機関で学ぶ学習者の増加が顕著ですが、学習者の増加に対応した支援体制の充実強化が大きな課題となっています。日本

語を学びながらも、学習者が訪日する機会はおろか、日本人と日本語を話す機会もまだまだ限られています。日本語を学ぶ学生達が日本語をより楽しく効果的に学習できるよう工夫し、学習意欲を高めたり、より多くの人に日本文化や日本語に興味を持ってもらう努力が一層重要になっています。

「日本語パートナーズ派遣事業」は、こうした状況にある ASEAN 諸国の主として中等教育機関の活動を支援し、日本語学習者や日本文化に関心を持つ人々の学習意欲の向上や、日本人との交流機会を増すために、現地日本語教師のアシスタントとしての“日本語パートナーズ”を派遣するプログラムです。

また、“日本語パートナーズ”自身にも現地での活動と人々との交流を通し、派遣先国・地域の文化や言語に対する理解を深め、将来的に日本との架け橋となることが期待されています。

2014 年 4 月にインドネシア・タイ・フィリピン 1 期、5 月にインドネシア 2 期とベトナム・マレーシア 1 期の募集を行い、105 名の募集枠に対し 500 名以上の応募がありました。応募要件として日本語教育経験は求めていませんが、日本語教育やボランティアの経験者や、日本語教師を目指す大学生等、すでに日本語教育と関わりがある方が多数応募されました。

応募者は書類と面接による選考を経て派遣が内定します。内定者は 1 か月間の派遣前研修を修了した後、それぞれの任地へ派遣され、約半年間から 10 か月間程度の期間、“日本語パートナーズ”

として現地で活動します。

なお、「日本語パートナーズ」派遣事業は 2020 年までに 3,000 人以上の「日本語パートナーズ」を派遣するプログラムです。幅広い人材を対象とした募集を、今後も継続的に実施する予定です。